

町民体育大会開催！福島地区が35連覇

第66回甘楽町体育大会が8月25日、各競技会場で行われました。今年からは陸上種目の県大会が開催されないことから町大会も実施せず、小幡・福島・新屋支部対抗で各種球技や剣道が行われ熱戦を繰り広げました。福島支部の35年連続総合優勝で幕を閉じた大会の成績は右表のとおりです。

支部対抗 成績表 () 内は得点数

種 目	種 目 別 順 位		
	優勝	準優勝	第3位
バレーボール女子	福島(3)	小幡(2)	新屋(1)
バレーボール男子	福島(2)	小幡(1)	
ソフトボール	一雨天中止		
卓 球	小幡(3)	福島(2)	新屋(1)
ソフトテニス	福島(3)	新屋(2)	小幡(1)
剣 道	福島(3)	小幡(2)	新屋(1)
総 合	福島(13)	小幡(9)	新屋(5)



バレーボール女子



バレーボール男子



ソフトテニス



剣道



卓球



ソフトボール(1試合のみ実施)

9/8

第15回親善 グラウンドゴルフ大会

優 勝	轟B
準優勝	庭寿会A
第3位	第二白寿会A



優勝した轟Bチーム



蕎麦づくり入門スタート

種まきから蕎麦打ちまでが体験できるオーナー制度「蕎麦づくり入門」が秋畑那須地区の「ちいじがき蕎麦の里」で始まりました。8月18日、蕎麦づくり名人の指導を受けながら畑に種をまき、9月8日には土寄せが行われました。

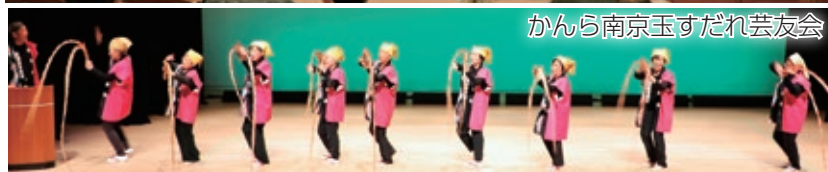
参加者からは「無事に成長していて一安心です。土寄せは思っていた以上に大変でしたが、名人やほかのオーナーさんに助けてもらい作業を終えられました」と笑顔で話しました。



苗が雨や風で倒れないようにくわで株元に土を寄せて安定させます

いっまでもお元気で 敬老会

甘楽町社会福祉協議会主催の敬老会が75歳以上の人を招待し、9月11・12日に町文化会館で開催され、皆さんに敬意を表すとともに長寿を祝う会となりました。



能や狂言の世界に触れる かんら薪能

宝生流かんら薪能が9月22日、降雨が予想されたため会場を梁山園から文化会館に変更し上演されました。

演目のあらすじや見どころの解説があった後に、仕舞や野村萬斎さんの狂言「佐渡狐」、宝生和英さん、辰巳満次郎さんによる能「綾鼓」が演じられました。

舞台上に用意された竹林やかかり火などの演出によって能楽の持つ荘厳な雰囲気は一層引き立てられ、観客は、作品や演者の魅力はもちろん、奥深い日本の伝統文化の世界を大いに堪能しました。



絵本の世界が広がるイベント 町図書館

甘楽町図書館の夏のイベント・絵本「おふろさん」のパネル展が8月17日から9月3日まで行われ、8月31日には絵本作家のせきぐちひろみさんによる読み聞かせ&ワークショップが開催され親子連れなど96人が参加しました。

せきぐちさんが感情豊かに朗読すると、主人公の“おふろさん”がより生き生きとかわいらしく感じられ、子どもたちを一気に物語の世界へと引き込み会場全体が和やかな雰囲気に包まれました。

園田詩織さん(福島小3年)は「おふろさんがかわいかった。オリジナルのスケッチブックも作れてうれしいです」と笑みを浮かべました。



おふろさんのシールを貼ったり自由に絵を描き自分だけのスケッチブック作りを紹介するせきぐちさん

感動と希望を届けたミュージカル公演

町発足65周年記念事業・子ども参加ミュージカル「かめがもり瓶ヶ森の河童しばてん」が8月31日、町文化会館で上演されました。

同作品は、ミュージカルカンパニー「ふるきやら」による生き物との共生や自然の不思議をテーマにした本格ミュージカルで、オーディションで選ばれた町内の小学生50人が出演し作品に華を添えました。

子どもたちは夏休みに稽古を重ね本番に挑み、緊張しながらも一生懸命に歌やダンスを披露する姿に満席の客席からは惜しみない拍手が送られました。無事に公演を終えた子どもたちの顔は、達成感と自信に満ちあふれ、子どもたちにとって貴重な体験となりました。

公演は町民有志で結成された実行委員会が支えており、実行委員長の堀越寛子さん(金井)は「ミュージカルを通して仲間との絆や挑戦することの大切さを学び、成長した子どもたちの姿を見ることができ感動しました」と話しました。

観る人に感動を与え、子どもたち自身も未来への希望を育むことができた記念事業となりました。

▼①②豊かな表現力を見せる子どもたち③白倉出身の女優大河原もと子さん④出演者全員による感動のフィナーレ

出演者の声



ウリンボB役

松本陽聖さん(新屋小4年)

「少し恥ずかしかったけれど、練習したことを振り返りながらやたらうまくなってきた。楽しかった」

花役

高坂みのりさん(福島小1年)

「歌のリズムが好きで家でもいっぱい練習した。終わってしまいさみしいけれど、いつかまた舞台に立ちたい」



ウリンボA役

高野まるさん(小幡小2年)

「緊張もしたけれど、歌もダンスも得意で、楽しんでできた。拍手をもらえてうれしかった」



中秋の名月に「御殿のお月見会」

「第13回御殿のお月見会」が9月17日、国指定名勝楽山園で開かれました。

輪投げなどの子ども向けゲームや月見団子などの販売が行われた御殿前通りの「宵待ち縁日」がにぎわいを見せた一方、園内に一歩足を踏み入れると静寂の中、箏や琵琶、篠笛の心地よい音が流れ、空を見上げ月の登場を待つ人の姿がありました。雲の切れ間から美しい月が顔を出すと来園者はその瞬間を逃すまいと写真に収めていました。

今年は、小幡小児童が作成した竹ランタンが会場を彩り、ランタンからもれる温かい光で園内はより一層幻想的な雰囲気になりました。



月明かりに照らされた楽山園



「9月23日手話言語の国際デー」に合わせ
楽山園も青色にライトアップ



篠笛の澄んだ音色が聴衆を魅了



お菓子釣りやヨーヨー釣りも大人気

か かんら保育園誕生日会

かんら保育園(妙見良子園長)で8月生まれの誕生日会が8月22日に開催されました。

この日は子どもたちを祝うために、ぐんまちゃんやかんらちゃんなどのキャラクターが特別ゲストとして登場し、森平町長もお祝いに駆けつけました。園児たちはチームに分かれキャラクターや町長らも加わりゲームをしたり、ダンスを踊るなど笑顔あふれる楽しいひとときを過ごしました。

©群馬県 ぐんまちゃん



ぐんまちゃんと「ミンナノグンマCHANCE!」を踊る園児

福祉メッセージを伝達

知的障がい者への理解を深め福祉の向上を呼びかける「福祉メッセージ」の伝達式が9月17日に役場で行われました。

地域活動支援センターあゆみ(小幡)の保護者を代表し坂本恵子さん(金井)と利用者を代表し加藤美智江さん(善慶寺)が、それぞれメッセージを読み上げ町長らに手渡しました。

町長は「福祉は行政の柱の1つ。行政のみならず1人1人が力を合わせ、全ての人が平等に暮らしていける町づくりを進めていきたい」と応えました。



(右から)白石議長、森平町長、近藤教育長にメッセージを朗読する坂本さん(左)

絹文化の伝統を今に伝える

甘楽町歴史民俗資料館は8月20～22日、手織り機の一つ高機^{たかばた}による手織り体験を通じて養蚕への関心を高めてもらおうと、美しい模様と色合いが特徴の「伊勢崎^{くくがすり}括り^ひ紺教室」を開催しました。

参加者は、講師の県ふるさと伝統工芸品伊勢崎括り^ひ紺工芸士の齋藤定夫さん(伊勢崎市)による指導を受けながら、数ある工程の中から仕上げの織り作業の一部を体験しました。たて糸が張られた状態の高機に座り、右手でひもを引くと「飛び杼」という道具に巻かれたよこ糸がたて糸の間を通り抜け、左手でよこ糸を手前に締め付けます。その間、足を交互に踏み込み一連の動作に参加者は額に汗をにじませながら織り進めました。

自分の手で作り上げた生地を手にし、絹文化の魅力の一端に触れた参加者からは「手足を別々に動かし集中力が必要で大変でしたが、貴重な体験ができて楽しかったです」との声が聞かれました。



高機での手織りを通して
伝統工芸の奥深さを体験する参加者

空手道で全国大会に出場 林 心優さん

第32回全国中学生空手道選手権大会が8月21・22日にエディオンアリーナ大阪(大阪府大阪市)で開催され、林 心優さん(甘楽中2年)が出場しました。林さんは5月に行われた第33回群馬県中学校空手道大会の女子個人組手(1対1の対戦形式)で、準優勝し全国大会の出場権を得ていました。

大会は中学3学年の選手が同じトーナメントで競い合い、全国大会では惜しくも1回戦敗退とはなりましたが、林さんは「本来の自分の組手ができず、自分に負け試合にも負けてしまいました。学年別で行われる次の選抜大会では自分の組手で優勝を勝ち取るため練習をがんばりたいです」と先を見据えていました。



空手着姿も凛々しい林 心優さん

空手道で世界に挑む 林 愛莉さん

10月に高崎アリーナ(高崎市)で行われる船越義珍杯第16回少年少女世界空手道選手権大会に出場する林 愛莉さん(新屋小6年)が9月5日、役場を訪れ森平町長(写真左)と近藤教育長(写真右)に世界大会出場への報告をし、激励を受けました。

林さんは、7月の県大会で小学6年生女子組手の部優勝、形の部3位という成績を収め、8月3・4日に静岡県で行われた全国大会では組手で優勝、組手と形の成績を合わせた総合部門でも優勝を飾り、日本の頂点に輝きました。

父の昌宏さん、姉の心優さんの影響で空手道を始めたという林さんは「初めての世界大会出場なのでわくわくしています。自分らしい組手で大会を終われるようにしたいです」と意気込みを語りました。



全国大会の優勝杯とメダルを胸に決意を語った林 愛莉さん